

三島駅南口再開発事業

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 22 回の今日は、「三島駅南口再開発事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 6 月には三島駅南口の総合観光案内所が駅前広場西側から、より駅の改札に近いところに移転したりするなど、「駅前開発の準備が着々と進んでいるのかな」という印象を受けていますが、まずは、現在の事業の状況を教えてください。

市長： 三島駅南口駅前ロータリーの西側区域につきましては、三島駅南口広域観光交流拠点整備事業を進めています。この事業は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、富士・箱根・伊豆の玄関口である三島駅南口に観光と交流の拠点を整備するもので、東急電鉄及び東急ホテルズが、ホテルを核とする施設を建設・運営していきます。今、おっしゃった駅前施設の移転は、この事業に付随するものです。ホテル等の建設工事は今年の 11 月頃に着工、開業は 2020 年 4 月を予定しています。

アナ： 完成が楽しみですが、どのようなホテルになるのでしょうか。

市長： 地上 14 階建て、高さ約 57.5m、客室数は約 200 室、ツインルーム以上の客室 70%以上のいわゆるシティホテルで、駅広場の緑や楽寿園の緑と調和した景観に配慮した施設計画となっています。また、ホテルには宿泊だけではなく、地元特産品を扱う店舗や地元のこだわりの味を提供するレストランなども入る予定です。

アナ： なるほど、どのようなお店が入るのかも楽しみの一つですね。期待したいと思ひます。ところで、先程、「観光と交流の拠点」というお話がありましたが、どのような事が期待されますか。

市長： 三島は富士・箱根・伊豆に近いことから、これら一大観光地の観光客を取り込むことが観光政策の重要な課題の一つでした。そこで、三島駅周辺グランドデザインの中で、観光の玄関口としての役割を明確にするため、広域交通の結節点である三島駅南口に拠点を整備することとした訳です。

伊豆市が自転車競技の会場となっていることもあり、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多くの訪日客が予想されます。観光の拠点としての機能を更に強化することで、もっと三島に訪日客を呼び込むことができるのではないかと考えているところです。

アナ： 「観光の拠点機能の更なる強化」ということですが、今回の事業で予定されている計画や具体的な取組みはありますか。

市長： 東急グループでは、全国にある施設やメディアを活用し三島の魅力発信に協力していただきます。具体的な取組みは協議中ですが、渋谷駅前のスクランブル交

差点前にある東急の商業ビル「Q FRONT」(キューフロント)に設置されている大型ビジョンでの動画配信もその一つです。

また、施設面では観光の情報発信等で観光の拠点機能を強化し、観光客を様々な面からサポートしていただく予定ですが、伊豆をはじめとした周辺観光地と連携しながら、例えば、他の東急グループ施設との連泊プランなどにより、三島へ訪れるきっかけづくりをしていくことなども検討されています。

アナ： 一方、駅前ロータリーを挟んで東側でも開発の計画があるようですが、こちらはどのような計画なのか教えてください。

市長： 東側区域につきましては、先程、三島駅周辺グランドデザインの話をしました。その中で、再開発事業により「広域健康医療拠点」を整備することとしています。

地権者の皆様と力を合わせて、今年度は、事業検討のパートナーとして、事業計画の検討支援や事業の初期段階で必要な資金を立て替えてくださる事業協力者を公募で選定する予定です。

開発コンセプトには、健康、医療のほか、にぎわいづくりにつながる商業、交流スペースなども例示しておりますが、具体的な施設概要は事業協力者が決定した段階で明確になってまいります。

アナ： どのような施設になるのか楽しみです。
豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。